

第1回釜石情報交流センター運営検討委員会開催結果

日 時 平成26年1月27日（月）午後1時から午後3時まで
場 所 市役所第7会議室
出席者 次頁のとおり
次 第 以下のとおり
結 果 下記のとおり

<次第>

1. 開会
2. 挨拶
3. 委員委嘱状交付及び委員紹介
4. 委員会要綱について
5. 委員長選出
6. 東部地区フロントプロジェクトについて
7. 釜石情報交流センターについて
8. 意見交換
9. 事務連絡
10. 閉会

第1回 釜石情報交流センター運営検討委員会 委員名簿

〈委員〉

番号	氏名	所属等	備考	出欠
1	佐々木重雄	釜石商工会議所 専務理事	市民ホール検討委員	出席
2	山口里美	RCF復興支援チーム	市民ホール検討委員	出席
3	金野恭子	釜石商工会議所女性会		欠席
4	斎藤裕基	釜石東部コミュニティ振興グループ代表		出席
5	小笠原順一	釜石市大渡町商店街振興組合		出席
6	下村達志	かまいしプラットフォーム	交流センター準備委員会	出席
7	西条佳泰	LiFESTYLE Lab.代表	交流センター準備委員会	欠席
8	高橋つね子	エプロンハウスHOT	共同店舗	出席
9	菊池広隆	小島製菓	共同店舗	欠席
10	福土正行	市民公募		出席
11	佐々木愉子	市民公募		出席

〈事務局〉

1	氏原 茂将	メディアセブン	
2	釜石市総務企画部総合政策課		
3	釜石市総務企画部広聴広報課		
4	釜石市教育委員会市民文化会館		
5	釜石市教育委員会生涯学習スポーツ課		
6	釜石市産業振興部観光交流課		
7	釜石市産業振興部商工労政課		
8	釜石市復興推進本部リーディング事業推進室		
9	釜石まちづくり株式会社		

<結果>

1. 開会（佐々木主任）

2. 挨拶（野田市長）

野田市長）ご出席いただきありがとうございます。今日は情報交流センターの第1回検討委員会だが、震災前に策定をした総合計画に入っていたのが、東部地区の振興。東部地区は従来から釜石の中心だったが、年々さびれていっており、東部地区の振興に向けて、どうしようかという議論をしていたときに震災に見舞われた。震災をばねに、これからの活性化を図っていこうというのが大きな趣旨。弱いところを課題として乗り越える取組みを行ってきた。フロントプロジェクト1は、大型商業施設をまちの中心に据え、商業拠点としての役割を保持し、今まで以上に価値を高めるというプロジェクト。イオンが先に建設されるが、今後、市民文化会館、情報交流センター等を大町周辺に配置し、活性化を図ろうというもの。FP1の位置付けをご理解いただきながら、市民文化ホールがあり、情報交流Cがあるということをご理解いただきたい。本日はその議論の第一歩として皆さんの忌憚のないご意見をいただきたい。

3. 委員委嘱状交付及び委員紹介

（委嘱状交付。代表として佐々木委員に委嘱状を交付）

（委員紹介）別紙名簿のとおり

（事務局紹介）別紙名簿のとおり

（市長退席）

（配布資料確認）

4. 委員会要綱について（平松室長） 別紙のとおり説明

5. 委員長選出

佐々木）要綱には委員の互選とあるが、案をお持ちの方はいらっしゃいますか。

一同）なし

佐々木）それでは、事務局より佐々木委員を推薦させていただいてもよろしいでしょうか。

一同）異議なし。

佐々木委員長）市のほうからいろいろな委員をさせていただいているが、文化・芸術・情報といった分野は苦手とするところ。皆様のご協力をいただいて、市民に愛され、親しまれ、使い勝手のいい施設となるよう、考えていきたい。

平松室長）副委員長として、女性の方がいいのではないか。一般公募の佐々木さんいかがか。

愉子委員) 引き受けさせていただく。

6. 東部地区フロントプロジェクトについて

7. 釜石情報交流センターについて

佐々木委員長) 次第の6、7と続けさせていただく。平松室長に説明をお願いしたい。

平松室長) (東部地区 FP について、配布資料に沿って説明)

佐々木主任: (釜石情報交流センターについて配布資料に沿って説明)

佐々木委員長: 次第8の意見交換に入ります。先ほどの説明を踏まえて皆さんに意見をいただき、前の委員会も踏まえて基本構想が作られていますし、準備委員会でも議論を重ねて考えを示していただいているので、これをベースに議論していただきたい。私の方から委員の皆さん一人一人にご意見を伺いたい。まずは、山口さんお願いします。

山口: オーサリングルームの使い方がわからない。編集であればテーブル1つの広さでも十分。本当にこの程度の広さが必要なのか。ニーズに合わせて機種もある程度そろえなければならない。データが重たいので管理をどうするのか。アシスタントとしてそれを解決できる人がいないと、ごみのようなデータがたまり、作業にならなくなる。ある程度維持管理費がかかるが、それを含めて考えているのか。

オランダに行ったことがあるが、ミッフィーカフェをオランダの家とするコンセプトはいい。あたたかみがあり、入ってみたいと思わせる要因になるのでは。

平松室長: オーサリングルームについては、こういった機能があればいいのでは、という程度で考えている。気をつけるべき点や、こうした方がいいという意見があればいただきたい。維持管理費についてもまだ固まっているわけではないので、アドバイスいただきたい。

佐々木委員長: 我々の世代にもわかりやすい説明をお願いしたい。

高橋委員: 情報交流センターのテナント部分にはどんな店舗が入るのか。幅広い世代の集客ができるのかどうか気になる。ずっとこの場所で生まれ育ってきた。この一角が華やかになるような店舗を期待している。

佐々木委員長: 今のところ事務局から出せる情報があれば。

平松室長: ここで商売したいという人には門戸を開く。魚屋さんなのか食堂なのかで全然違うというご心配ももつとも。そもそも店舗にすべきなのか、ホールができるまでの市民活動の場として利用したほうがいいのかと言った点も、委員の皆さんにご意見いただければ。

福士委員: 私の方からは4点。FPという名称は市民にぱっと理解できるのか。どういうこ

とをやっているのかということが、市民に伝わりにくい。毎回会議に出ているような人にはわかるのだろうが、もう少しかみ砕いて説明してもいいのでは。

2つ目は、イオンとの連絡通路は何の為にあるのか？

3つ目は、図書館機能をもっているということだが、現在の図書館の人の意見をどこまで反映しているのか。OBとして、現職の図書館員の意見も大事だと思う。

4つ目は、維持管理費。ソフト関係もハード関係も日進月歩で進化している。誰も見向きもしない建物にならないよう、機能を維持していけるのか。将来だれも使わない施設になってしまったとにならないようにしてもらいたい。

平松室長：1つ目。日本語では再考、復興。今後もこの名称を使用するかについては検討したい。

2つ目。市街地からはショッピングセンターに行く通路は普通車しか入れない。大型車については、中番庫から入る形になる。

3つ目。図書館的な機能が欲しいと考えている。図書館法に準ずる図書館にするか、社会教育的施設にするか、協議していきたい。

4つ目。引き続き事務局でも検討。施設の維持については、単純に震災前にあった施設に上乘せするとオーバーしてしまう。人とお金をいかに集められるかという観点でこの施設がいかに必要かを訴えていく必要がある。

愉子委員) お手洗いは市民ホールの側にあるのか？

平松室長) 公共施設なので、当然整備する。今回提示したものはブロックプランといって、敷地内に収まるかどうかを見るためのもの。配置については変動の可能性はある。この場でご意見いただければ、設計に反映したい。

愉子委員) 今小さい子供を育てている。トイレが充実しているところだったら遊びに連れて行きやすい。広くてあったかくて使いやすいトイレをお願いしたい。女性はきれいなトイレが好き。トイレを利用するついでにカフェに寄ることもある。トイレには力を入れてもらいたい。

佐々木委員長) イオンから人を呼び込むためには、イオンよりすばらしいトイレをお願いしたい。

下村委員) プロジェクトの名称部分は気にしている。建物の名前なのか、エリア全体なのかは未定だが、最終的にこのエリアのネーミングはどこかのタイミングで検討すべき。どういう人がどういう風に使うかを細かく考えたときに、普段当たり前前の生活の中で使う人がどのくらいいるか。バスターミナル的な要素をもたせ、交通の拠点になるような場所にできないか。バスの待合所があるだけで、自然に人の集まりができる。深夜バスの発着をここにもってくれば、1日にある程度の人が行きかうことになる。それを契機になにかしらのお店もできるかもしれ

ない。人がうまく集まる流れを作ってほしい。

佐々木委員長：生活の中で使えるということは大事。ネーミングも重要だ。

下村委員：若干話が飛躍するが、釜石港線と言われたときに行政的な関わりがある人でなければ道路の名前であるとピンとこない。市民にも定着する名前。

佐々木委員長：FPの基本的な考え方は、歩いても交流できるということ。

小笠原委員：会議のスペースが足りていない。5年後、10年後も需要があるかはわからないが、十分確保してほしい。イオンと地域の連携ということで、地域通貨的なポイント事業をやりたいという話があった。難しいと思うが、地元商店街と連動させて、いいものにして欲しい。前の商店街がさらにいい形になるようなものにして欲しい。下村委員も言っていたが、シャトルバスを走らせればいい。それにも地域ポイントを使えるようにすべき。イオンからお客さんが流れてくる配置を考え、導線を早期に予測して提示してほしい。交流Cを含むエリアマネジメントを一括してやってほしい。

雨にぬれずに行けることは考えなくていいのか。

平松室長：エリアの愛称はいずれ決めていかなければならない。会議室については、どのくらい取れるか数えてうえで具体的に図りたい。シャトルバス、深夜バスの発着については、バスの担当と話をしたい。大町なら23時まで開いているSCもあるので、時間調整ができる。

駐車場を出てしまうと屋根がない。雨にぬれずにできるのか。設計上可能かどうか確認してみる。

佐々木委員長：イオンに来たお客さんが町に出るのは難しいという意見もあったが、本来はそれが目的の1つ。

齋藤委員：広場から市民ホール、交流Cに行くには裏通り（市道）を超えなければならない。この通りが結構ネックになると思う。危険もあり、検討の余地があるのではないかと。バスの発着点は人が集まる。情報発信は良いと思うが、売っている場所が離れていたらあまり意味がなくなるので、商店街とのリンクを考えるべき。特産品をエリア内で販売することも考えては。ライブラリは市立図書館との差別化が必要。ミッフィーカフェの使い方について、公共スペースでもコーヒーを飲みながら雑誌を読めるような環境にして欲しい。機器について、ちょっとしたソフトでも300万、400万する。すぐにアップデートが必要になる。かなりコストがかかるのではないかと。これが本当に維持できるのか？ミッフィーカフェについても、連携をもってやるのは大事だが、5年後、10年後維持できるのかきちんと検討すべき。

佐々木委員長：私もいろいろ委員会に出ているが、これだけコストのことを心配する委員会も珍しい。

佐々木委員長：ブロックプランの段階での施設配置についての意見や、準備委員のかたがたが検討したプランについて、皆さんのほうでさらにこういう風に見直したほうが良いというのであれば、ご意見いただきたい。それをベースに第 2 回に臨みたい。

佐々木主任：基本設計が 3~4 月。夏くらいまでに固めて実施設計という流れになる。

佐々木委員長：どのくらいのサイズをイメージすればいいか？

平松室長：青葉ビルを半分にして 2 階建てにした感じ。

佐々木委員長：ここは情報共有の場。準備委員会のメンバーも若いけど釜石市は高齢化率が 35% になろうとしている。高齢者にとっては、毎日が日曜日。そういった方にとっても使い勝手のいいもののほうが欲しいというのが率直な意見。

高橋委員：出入口がどうなるか。カフェは外に面して見えるようにしたほうが、寄りたくなるのでは。公営住宅側は壁になるのか。

平松室長：ミッフィーカフェは内装の一部。出入口をもう 1 つ作る。表通りから見えるようにという案に沿った形を考えている。

福士委員：子供たちのことも大切に考えて作ってほしい。

佐々木委員長：300 m² のテナント部分を託児所にする等、何か具体的なアイデアがあれば教えていただきたい。ミッフィーカフェは我が国初で良いか？

平松室長：今のところ、日本に常設のカフェはない。

佐々木委員長：準備委員会のかたが提案した地域ポイントについてご意見は？プレ事業として①から⑤まで実施するということだが。

平松室長：ワークショップや、外に釜石を宣伝するための CM 作成、釜石のツアーコンダクターを養成することを事業としてやることで、釜石の魅力を再認識してもらおう。大町を拠点としてランニングコースを設定して、みんなで走るイベントを企画する。

下村委員：交流センターができれば、こういう事業が始まるということ？

平松室長：建物に先駆けて企画を行う。

下村委員：交流センターって何をやるのかわかりにくい。イベントを通じて周知。

齋藤委員：拠点はあくまで情報センターだが、地元の商店街やイオンとの連携を考えていて欲しい。例えばイベントや商店街のイベントをこの広場でやる等。商業者、住民に対する働きかけがなければ、意義が感じられにくいものになってしまう。

佐々木委員長：このエリアは商業の拠点。もともとの商業者の方に対して、行ってほしい

ことはあるか。

小笠原委員：交流センターの裏は車が通れるのか？

平松室長：通れる。例えば裏からも入れるようにして欲しい等の意見があれば伺いたい。

齋藤委員：準備委員会ではそういった話は出なかったのか？

下村委員：情報交流センターのソフト、中身の話なので施設のことはあまりしていない。
非常時のことを考えると、ぜんぜん違う考え方もある。

平松室長：新しい駐車場の屋上は一時避難場所にもなる。

下村委員：根本的な話として、車生活から人が歩くような町にしたい。震災前は街中を歩く人がほとんどいなかったと聞く。イオンにしか人がいないという町にはしたくない。ここを拠点に、散歩がてら歩いて帰ろう、となれば良い。

佐々木委員長：歩いてもらうには、歩いてみたくなる気持ちにさせなければならない。

下村委員：歩いてみたくなる何かがあれば。

佐々木委員長：大きな駐車場があるわけだから、車を停めてからこの界隈を歩いてもらうようにしなければならない。今までは市民の方々に日常の中で使ってもらおうということで話をしてきたが、釜石の外から来る来街者が、「ここに来れば何か情報が得られる」ビジネスで来られた人がちょっと仕事できるようなスペースも今まではなかった。

山口委員：青葉ビルは Wi - Fi がない。FP1 のエリアに Wi - Fi があれば良いと思う。イオンモールでは、裾上げやフードコートなどの待ち時間を知らせるブザーがある。それを FP1 エリア内でも使えるようにすることで、空いた時間をイオンの外で過ごそうという人を促せるのでは。市民ホールにどのくらい人が来るかわからないが、もうちょっと人がはけてから入りたい人など、交流センターのラウンジ側から様子が伺えるようにすると、相互利用もうまくいくのでは。人の流れも流動性が高くなる。

平松室長：間の道路には歩行者優先になるような工夫を施し、広場を通じて一体的に使えるようにしたい。

佐々木委員長：雨が降れば濡れるが？

平松室長：雨は防げない。

高橋委員：かさ上げはするのか？

平松室長：3.11 が来ても浸水しないレベルにかさ上げ。1 m から 1 m50 程度。

齋藤委員：交流センターと市民ホールの上に屋根をかけると使い勝手がよさそう。

佐々木委員長：ミッフィーはどの程度使えるの？

平松室長：釜石市が一元管理。オランダ大使館、ディック・ブルーナ・ジャパンと協議し、認められれば使える。

佐々木委員長：次の委員会は、皆さんから今日出された意見に対する対応策を話し合う。
どうしても今日言っておきたいことがあれば。

福士委員：駐車場の高さは？

平松室長：2.1m までは止められる。

福士委員：戦災資料館はどうなったのか？

白岩さん：震災前は市営ビルの 1 階にあった戦災資料館。展示資料は流出。浜町の右岸が今残っている市内の主要な戦災資料となってしまった。郷土資料館を改装し、展示をしている状況。今のところ戦災資料館の復旧はない。

佐々木委員長：それ以外で意見があれば、次回までに事務局にご連絡いただきたい。次回、さらに具体的な話をしていければと思う。

佐々木主任：第 2 回のスケジュールだが、2 月 25 日（火）14 時から同じ場所で開催する予定。また改めて書面でも通知したい。

平松室長：次回、テナント等も含めさらに具体的な話をお伝えしたい。第 2 回で議論が十分にできれば第 2 回までで終了とすることもできるが、進捗と皆さんのご意見次第。その点も含めて、次回協議したい。